

大森学生寮 文学部1年 女子RA



RAに応募した動機は何ですか？

一人暮らしではなく寮から大学に通うことを選択した理由が留学生との交流を持ちたいということだったからです。

RA



自分からしっかり留学生に話しかけることです。食堂で会ったり、廊下で一瞬すれ違ったりした時でも必ず挨拶をしてそこから必ず何かしら話を展開するようにしています。留学生の出身国や研究内容、趣味などを覚えて、前に話したことも覚えていることを示すことで信頼してもらえるように心がけています。また、私は国や所属する組織へのイメージはそこにいる人たちとの関わりで構築されていると考えているので、常に自分自身の留学生に対する接し方がそのまま日本や慶應の印象につながるということを意識して、日本、そして慶應を留学先に選択してよかったと思ってもらうためにはどうしたらいいかを考えて行動しています。加えて、何か困りごとがあると連絡をもらった時はなるべく早く返信をするようにすること、そして普段からの積極的なコミュニケーションの積み重ねによって頼ってもらえる存在になれるように努めています。

RAとしてどんな活動に力を入れましたか？

RAになってよかった点は何ですか？

1番は、やはり色々な国から来た留学生と仲良くなれることです。自分がまだ訪れたことがない国のことをたくさん知ることができて世界が広がったと感じています。日本にいながら留学をしているような感覚です。RAになる前も留学生との積極的な交流を心がけていましたが、やはり実際にRAとして留學生活の最初から留学生をサポートし、関わっていくのと、そうでないのとでは交流の密度が異なると感じています。そして、毎日留学生の話を聞くことによって、自分自身も留学生の体験を追体験することができ、毎日の生活がより刺激的で、新しい発見で溢れるものになりました。また、言語学習へのモチベーションも高まりました。例えば私は第二外国語としてフランス語を学習していますが、授業で習った表現を寮に帰ってすぐにフランス人の留学生に使ってみたり、わからないことがあった時には教えてもらったりすることで授業にもより意欲的に取り組むようになりました。学習している言語を実際使用している人が周りにいるのといないのでは学習意欲が格段に異なると実感しています。

業務面で大変なことはそこまでありませんでしたが、自分自身が持っている価値観を疑ったり、刷新したりする必要があったことです。価値観や考えの違いから摩擦が起きることも時にはあります。その度に、自分自身が今までの18年間の人生で築き上げてきた価値観や考え方を見つめ直し、相手と話し合っていくということが大変でした。しかし、同時にそれがこの活動で1番やり応えを感じたことの一つでもあります。

RA活動の中で大変だったことは何ですか？

RA活動を通じて身についたことは？

相手の立場に立ってものを見る力です。もちろん留学生と毎日英語で会話をするので英語力の面でも成長がありますが、実際に留学生と関わる中で自分とは考えが違ふなと思うことや、意見の衝突から、実際に数日間口を効かないような大喧嘩をしてしまったこともあります。しかし、そのような経験を通して、どちらの考えが正しい、間違っているではなく、ものの見方に違いがあるというだけであることを理解し、どのような時でも目にみえる行動だけで相手を判断するのではなく、その行動をとる背景にはどのような考えや文化があるのかということまで思考を巡らせ、相手の立場に立ってものを考えることができるようになったと自負しています。また、留学生の国民健康保険への加入や転入届の提出といった役所対応をすることで行政の仕組みなど、日本人ながらに今まであまり知らなかったことを知ることができました。留学生の困りごと幅広く、日用品の購入から旅行の予約まで、様々です。そんな多様な困りごとを留学生の側と一緒に解決する中で自分自身も知らなかったような知識を得ることもできました。そして問題と一緒に向き合う中で、このようなところは海外の方にとってやりづらいのだなといったことやもっとこのようなシステムがあったら便利なのになといったように今まで考えたことがなかったところにまで視野を広げることもできました。

授業中に留学生から困りごとがあるので助けて欲しいと連絡がきたり、課外活動やバイトの関係で留学生が助けを必要としているときにすぐに対面に対応することが難しかったりすることはもちろんあります。しかし、自分が実際に留学生の用事に対面で付き合えなくても、テキスト上で日本語でメッセージを打って送ることで留学生がそれを役所やお店で見せるだけで用事が済むようにするなど、少しでも力になれるように工夫しています。もちろん、対面での支援も積極的に行い、予定が合うときは必ず実際に会ってサポートするようにしています。

授業、勉強、課外活動(部活・サークルなど)、アルバイトとRA活動はどのように両立されましたか？

RAを目指している学生にメッセージを！

RAは年齢、国籍関係なく多様な留学生と関わり自分の世界を広げられる最高の機会です。私はRAとしての活動を始めてから、実家に帰省した際に留学生との生活が恋しくなって逆ホームシックを引き起こしてしまうほどに寮生活がより充実したものになりました。非常に楽しくてやりがいのある活動なのでぜひチャレンジしてみてください。

元住吉宿舎 経済学部2年 男子RA



RAに応募した動機は何ですか？

留学生との交流を深めながら、英語力を実践的に活用できる環境に魅力を感じたからです。また、もともと不動産や管理業務に興味があり、快適な住居環境を整え、入居者が安心して過ごせるようサポートする仕事にも魅力を感じました。



RAとしてどんな活動に力を入れましたか？

留学生との交流を促進するイベントの企画に特に力を入れました。言語や文化の壁を越えて、より快適なコミュニティを築くことを意識し、日常的な相談にも積極的に対応しました。

RAになってよかった点は何ですか？

異文化交流を通じて多くの新しい視点を得ることができた点が最も良かったです。また、英語を実践的に使う機会が増え、語学力の向上にもつながりました。

テストや課題で忙しい時期に、RAの業務も入ってしまい、日程調整をしなければならないときがたまにあることです。

RA活動の中で大変だったことは何ですか？

RA活動を通じて身についたことは？

コミュニケーション能力と英語力が大きく向上しました。特に、多様なバックグラウンドを持つ人々との対話を通じて、異文化理解が深まりました。また、住居環境の管理や問題解決に関わることで、責任感も培うことができました。

時間管理を徹底し、優先順位を意識することで両立を図りました。RA業務は突発的な対応が求められることもあるため、日頃から余裕を持ったスケジュールを組むよう心がけました。他のRAと協力しながら業務を分担することで、負担を軽減し、他の活動とのバランスを取るようになりました。

授業、勉強、課外活動(部活・サークルなど)、アルバイトとRA活動はどのように両立されましたか？

RAを目指している学生にメッセージを！

RA活動は大変なこともあります。それ以上に貴重な経験と学びが得られる役割です。留学生との交流を通じて視野を広げたり、英語力を伸ばしたりできるだけでなく、住居環境を支える責任感も養われます。自分自身の成長につながる機会なので、ぜひ挑戦してみてください！

高輪国際学生寮 文学部4年 女子RA



RAに応募した動機は何ですか？

留学生と関わりたかったから、貴重な経験ができると思ったから、友人ができるから、セキュリティがしっかりしているから、大学の近くに住みたかったから、家賃が安価だから



イベント企画に1番力をいれました。参加者数を増やしたり、交流を促進したりするため、イベントの内容を工夫しました。

RAとしてどんな活動に力を入れましたか？

RAになってよかった点は何ですか？

中国、韓国、カナダ、ベネズエラなど、色々な国の友達ができ、色々なところに遊びに行けたことです。また、同じ学部同じ専攻同じ学年の友達ができ、卒業単位の計算を一緒にできたのが、心強かったです。

最初の半年は、慣れていないこともあって、入退寮時の手続きすべてが大変でしたが、1年後には慣れて楽しめるようになりました。留学生と関係を深めたのが大きいと思います。最後まで大変だったのは、イベント計画の際、寮の管理会社の方から、夜中に急に催促されたり、修正を求められたことでした。他のRA同士で分担を決めきれず、負担が私に偏った時期だったので、次からは平等に役割分担するようになり、少し軽減しました。

RA活動の中で大変だったことは何ですか？

RA活動を通じて身についたことは？

寮生やRAだけでなく、管理人さんや寮の管理会社の方など、色々な立場の人とコミュニケーションを取る力が身に付きました。効率的な仕事の進め方も身に付いたと思います。

授業がたくさんあったときは、自分の時間とみんなで過ごす時間を区切り、夜10時からは自室に行くなどと決めていました。忙しすぎて留学生と過ごせないときは、夕食を食べながら交流し、隙間時間に気分転換する気持ちでイベントの企画書などの事務作業を進め、バランスを取っていました。また、退寮チェックに説明することを資料化して渡したり、イベント告知文のテンプレートを自作しておくことで、限られた時間を対人交流に使えるように工夫しました。

授業、勉強、課外活動(部活・サークルなど)、アルバイトとRA活動はどのように両立されましたか？

RAを目指している学生にメッセージを！

応募当初に思っていたよりも、RAの業務を通して貴重な経験をたくさん積めた2年間でした！低学年からずっとRAをやりたいと思うくらい、間違いなく充実した生活が送れると思います！迷っている人がいたら、ぜひ応募してみてください！

元住吉宿舎 理工学研究科修士2年 男子RA



RAに応募した動機は何ですか？

当初目標にしていた留学がコロナ禍で叶わず、日本にしながら国際感覚を身に着けたいと思ったからです。



コロナ禍により寮運営のノウハウが喪失した状態で着任しました。そのため、寮長や大学の担当者の方と出来る限り密に協力しながら、二人三脚で寮運営の基礎を作りました。具体的には、留学生の入寮・退寮時の手順をGoogleフォームで電子化したり、寮の防災手引きを作ったりといった活動に注力しました。後輩のRAや留学生にも出来るだけ楽しい生活を送ってほしかったため、ノウハウが確実に引き継がれる方法を作り、手続き面で苦労しなくて済む(かつ、内容は理解できる)仕組み作りを心掛けました。

RAとしてどんな活動に力を入れましたか？

RAになってよかった点は何ですか？

(前者と共通しますが)自分は国際社会の中で「訛りがあるひとり」ということに気付けた点です。国籍や人種、宗教など、私と周囲の留学生の間には無視できない違いがあります。しかしそれは単なる表面的・形式的な違いでしかなくて、たとえカタコトの英語であってもそのギャップを越えた意思疎通は可能だということに気付きました。自分と周囲の関係性を考えるときに「違い」が見えることはありますが、それが「訛り」であって根本的な相容れない「壁」ではないということは、これから生きる上で大事にしたい価値観のひとつです。これを学べたRAとしての暮らしは自分にとってかけがえのない経験だったと思います。

辛い思い出はありませんが、各方面での「変化」への対応は苦労したかもしれません。コロナ禍からの回復に伴って留学生数が急増し、それまでの手取り足取りな留学生サポートが出来なくなったときは戸惑いました。結果的にGoogleフォームの導入でRA間の知識の差を埋め、RAの業務負担を平坦化することでこれは解決できました。また、役所のデジタル化が急速に進展した時期でもあったので、訪問する度に制度が変わっていててんてこ舞いになったこともありました。また、避けられない不測の事態として、急病人の発生、犯罪疑惑への対応、地震による停電の対応は大変でした。何事も1度目の経験であればどうしようもない(ので、RAなどで協力して頑張る)ですが、2度目以降は円滑に対応できるよう、報告書やマニュアルに対応事項を記載しておくのが大切だと気づきました。

RA活動の中で大変だったことは何ですか？

RA活動を通じて身についたことは？

沢山ありますが、大きく分けて2つです。1つ目は、誰もが「訛りを持っている」ということに気付けたことです。入寮当初、自分の英語能力に引け目を感じていましたが、入寮1年目で留学生から言われた「君の英語は(私と同じく)訛っているだけ」という言葉に救われました。慶應の留学生寮は国籍が豊かで、それぞれが「訛り」のある英語を話し、それでいて意思疎通は問題なく出来ています。自分の英語が周りに溶け込んでいると思えたことこそが、寮の多国籍な生活に溶け込める秘訣だったのかもしれません。2つ目は、報告・連絡・相談の能力です。コロナ禍の途中で入寮しましたが、着任1年目から約1年、管理人さんが定期的に変わる時期がありました。かなりイレギュラーなことでしたが、そのたびに管理人さんとの連絡体制を整える必要があり、情報の伝え方を工夫しました。紙に書く、直接管理室に出向くなどの方法面での工夫はもちろん、寮であったことを大学の担当の方に伝えておくことで、寮・RA・大学の三方よしな運営に少しは貢献できたかもしれません。

学業優先の考えのもと、サークルやアルバイト、長期インターンを掛け持ちしていましたが、両立に苦しんだことはあまりなかったと思います。しいて言えば、事前に大学や寮長、RAの仲間に都合がつきにくい日程を伝えておくことが両立するうえで大事だったと思います。

授業、勉強、課外活動(部活・サークルなど)、アルバイトとRA活動はどのように両立されましたか？

RAを目指している学生にメッセージを！

入寮時に私がお辞儀をしたら戸惑った留学生が、退寮時には自らお辞儀をしてくれたことがあり、とても嬉しかった覚えがあります。きっと人それぞれRAを通じて思うことは違うと思いますが、どれも貴重な学びだと思います。ぜひRAを目指してみてください！

大森学生寮 法学部4年 女子RA



RAに応募した動機は何ですか？

英語を使った国際交流にはもともと興味を持っていましたが、部活動もしていたので留学に行く機会はなかなかありませんでした。就職活動のため部活動を仮引退するにあたり、日本にしながら毎日国際交流ができるというRA活動に強く惹かれたのがきっかけです。

RA



RAとして寮の規律を守らせる立場にありながら、留学生にとって親しみやすい1番の相談相手なることです。必要な注意等はしますが、留学生とよく遊びに出かけたり食堂で一緒にご飯を食べたりし、必要なときに頼れる存在であることを心がけました。

RAとしてどんな活動に力を入れましたか？

RAになってよかった点は何ですか？

世界各地にかけがえのない友人ができたことです。4年生になって時間ができたので、帰国した留学生の家に泊らせてもらい、観光地を案内してもらうなどして安全で楽しい海外旅行を世界各地で楽しむことができました。

言葉がうまく通じないときは大変でしたが、留学生の言語能力が非常に高いので、理解した留学生が留学生どうして伝えてくれることもあり、お互い助け合っていました。

RA活動の中で大変だったことは何ですか？

RA活動を通じて身についたことは？

英会話力もそうですが、コミュニケーション能力が高まったと思います。多少英語がわからなくてもジェスチャーを用いながら楽しく会話できました。また、留学生にとって1番身近な日本語の先生になることが多かったので、日本語の話し方や言葉づかいにも気をつけるようになりました。

入寮/退寮の時期はRA活動が中心ですが、その他の時期は都度対応する感じだったので、自分の活動にも注力することができました。ただ、いつ問題が起きるかわからないので、メッセージにはすぐ気がつくように心がけていました。ほとんどの留学生とSNSで繋がっていました。

授業、勉強、課外活動(部活・サークルなど)、アルバイトとRA活動はどのように両立されましたか？

RAを目指している学生にメッセージを！

今のまま大学生活は満喫したいけど、国際交流もしてみたい！という方には本当におすすめです。世界各地にかけがえのない繋がりができ、自分の世界が広がるはずです。